

Contents:

1. 発達評価についての心理士向け研修会の報告
2. 第3回中央倫理委員会審査結果と説明・同意文書改訂に関する説明会の報告
3. 介入の進捗状況
4. 症例登録状況
5. 施設紹介

1. 発達評価についての心理士向け研修会の報告

本研究におきまして、対象児の「予後評価」は本研究のprimary outcomeとして重要なことをご存知のとおりです。評価の実施は、修正1歳半、暦3歳で行われますので2013年8月以降となりますが、それまでに研究班全体で評価の統一をはかる必要があります。

発達評価は、心理士による新版K式発達検査を原則としています。心理士不在、不足などの実施できない施設には、心理士の派遣を予定していますが、まずは、各施設で協力していただく心理士の先生方に、本研究の内容を十分に承知していただき、極低出生体重児のフォローアップにおける発達検査の意義、評価、支援についての共通理解をもっていただくことが必要と考え、心理士を対象とした研修会を2012年11月3日に開催しました(図、表)。

図. 研修会の様子



表. 研修会の内容

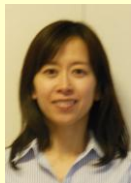
1.	研究の概要と目的の理解
2.	NICU医療の概略とVLBWの発育、発達の特徴
3.	INTACT研究における発達評価の方法の統一化
4.	VLBWを対象とした新版K式検査のおこりうる問題点や対応、家族への支援

<お知らせ(1)>

医師向けの発達評価の研修会は2月2日(土曜)に東京で行う予定です。すでに研究支援室からご案内させていただいており、出欠確認をさせていただいております。

《心理士向け研修会 参加者からの声》

☆出石陽子先生(日本大学医学部附属板橋病院小児科 臨床心理士)



はじめまして。日本大学医学部附属板橋病院小児科 臨床心理士の出石陽子です。当院でフォローアップしている児の発達評価と、NICUの中で家族への心理的サポートを行っています。

今回、「NICU－INTACT発達評価についての心理士向け研修会」に参加させて頂き、INTACT研究の目指すものと、その中で心理士の果たす役割について学びました。

極低出生体重の赤ちゃんが、1歳半そして3歳へと成長していく過程を発達評価を通じて見守りながら、健やかに育っていけるように心理面からの必要な支援を考えていけたらと思います。当院の医療スタッフと共にチームの一員として、INTACT研究の発達評価に取り組んでいきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

☆岡田萌恵先生(新潟大学医歯学総合病院 総合周産期母子医療センター 臨床心理士)



新潟大学医歯学総合病院 総合周産期母子医療センターの岡田萌恵です。今年の4月から臨床心理士として勤務しています。センターでは治療の中にある赤ちゃんとお会い、揺れ動く家族の気持ちに触れ、私の思いも揺れ動きながら、まだ緊張してすごすことも多いです。そんな中、今回の研修に参加し、研究の概要に加えて、NICUの医療の変遷やフォローアップでの対応についても講義していただけたことで、とても勉強になりました。今回の講義を通して、フォローアップという場を生かしながら親子を支えていくことが重要で、していかなければなら

ないことだと感じました。また、研修に参加していた他の施設の方とも交流ができ、情報交換ができたので有意義な機会となりました。研修を受け、研究を通して心理士が必要とされていることを実感し、スタッフの一員として力になれるよう取り組んでいきたいと思います。

☆古屋真紀先生(山梨県立中央病院 臨床心理士)



はじめまして、山梨県立中央病院の臨床心理士のと申します。この度INTCATの発達評価についての研修会に参加して、発達評価について改めて考える機会をいただきました。当センターは非介入群の為か、私自身研究に参加している意識が薄く、発達検査は研究のエンドポイントだと言われプレッシャーを感じてきました。研修後、当センターの発達カンファレンスの中で、数字として出た検査結果をお子さんと親御さんに、いかに返していくのかということについて、議論が及びました。研究というと数字に囚われてしまいがちですが、数字だけが一人歩きするのではなく、一番大切なことは、お子さんやその親御さんのために生きる結果として返すこと

かなと感じました。そして生きた子どもの姿を捉えられるようにすることが、検査を実施していく上で大切なことだと感じました。これから検査を通して多くのご家族に出会う機会をいただきたいと思います。研究の基準に従いつつ、検査場面やその結果がそのご家族にとって有意義なものになるようにしたいと思います。

2. 第3回中央倫理委員会審査結果と説明・同意文書改訂に関する説明会の報告

本研究の説明・文書改訂に関して、2012年10月10日に第3回中央倫理委員会にて承認が得られました。委員会の審査結果に関する説明会を開催しました。

1. 説明・同意文書の改訂について

研究開始後、ご家族に対し、入院時に臨床的に通常必要な説明に加えて、本研究に関する説明と参加協力の書面同意を取得することが現実的に困難というご意見をいただいております。また極めて重症で、早期新生児死亡の可能性が高いというようなお子さんの入院時に、ご家族に修正1歳6か月、3歳のフォローアップの説明まで行うことは、むしろ不適切という指摘もございました。

そこで、研究について1回の説明で全て済ませる形ではなく、段階を踏んで説明をしていただくような形を提案させていただきます。具体的には、研究説明とフォローアップへの協力という大きく2つに分けた家族向けの説明文書を用意致しました。

2. SPRAT妥当性評価研究について

本研究で、SPRAT (Sheffield Peer Review Assessment Tool)を新生児科医対象に使用しておりますが、SPRATは日本語での妥当性評価がなされていないため、本研究の一環として、日本語版SPRATの信頼性と妥当性の評価を行うことに致しました。妥当性評価は数施設で行います。

4. 介入の進捗状況

本研究の介入施設群19施設では、各々の施設が自ら立案した改善行動計画を実行し、半年以上が経過しました。現在、進捗状況を確認したり、計画を実行することにより新たに生じてきた(見えてきた)課題を明らかにしたり、今後に向けての話し合いを『フォロー施設訪問』という形で行っております。訪問は、本部のメンバーだけでなく、ペア施設の担当者や拡大支援班の数名で行っています。なかなか普段のメールのやりとりだけでは見えてこない実情も共有することができて、大変有意義な訪問となっております。

今回のニュースレターでは、フォロー施設訪問先の担当医師の村松幹司先生(名古屋第二赤十字病院)と拡大支援班の田仲健一先生(熊本大学医学部附属病院)に訪問の報告・感想をいただきました。

《フォロー施設訪問の報告・感想》

☆村松幹司先生(名古屋第二赤十字病院)



11月14日にワークショップ半年後の経過報告を行いました。本部から西田俊彦先生、拡大支援班として熊本大学の田仲健一先生、ペア施設の石川県立中央病院から北野裕之先生と看護師の工藤淳子さんと4名の方々が訪問して下さる予定でしたが、さらに飛び入りで神奈川こども医療センターの豊島勝昭先生が入っていただき5名の訪問となりました。特に豊島先生は、「IVHを減らすための循環管理」のために施設見学に行った際、細かく管理方法を提示され、指導いただいた先生なので、自分たちの方向性が誤っていないかやや心配になりつつ報告をしました。当院からは医師

2名、師長を含めた看護師5名が参加しました。

西田先生からは登録済みのデータから、蘇生時の酸素濃度が高めであること、体温が低くなりがちであること、を指摘され、蘇生方法を見直すことにしました。当院のデータ分析から血流感染が多く、PIの留置方法の再検討したこと、感染の勉強会が始まったこと、施設見学でうかがった

広島県立広島病院のゾーニングを取り入れつつあることを報告しました。取り入れつつというのは現在当NICUは仮設棟に移転中で、なんとプレハブ2階建てでいかんともしがたい施設面の貧弱さがあるからです。循環管理では、動脈血圧中心の管理から静脈還流に重きを置いた管理に移行しようとしていますが、心エコーによるstress-velocityの評価方法に問題があり、十分な効果が出ているとはいえません。豊島先生には、移行がスムーズになるよう講義・指導をお願いすることとなりました。看護サイドでは、担当看護師が異動によって変わっており、現スタッフの看護師さんたちは模索を続けながらいろいろなマニュアルをつくってくれました。工藤さんに見ていただきよい評価をもらって、彼女たちにはかなり自信になったようです。またせっかく作ったこれらを看護師さんたち自身が十分活用していないことがわかり、今後どう活用し、浸透させるかの検討も始まりました。

3月にワークショップを行いました。この後に仮設・本設の設計の会議、引っ越しの計画立案、9月に仮設棟に引っ越しやと落ち着いてINTACTに取り組めてきています。しかし3月には再び本設への引っ越しがあり、今後も予定通りいかないのではと心配になる今日この頃です。



図. フォロー施設訪問の風景

<お知らせ(2)>

皆さまからお寄せいただいたお問い合わせを中心に、現在、データベース登録マニュアルの改訂中です。来年1月に配布予定とさせていただきます。作業の遅れにより、ご不便をおかけしておりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

☆田仲健一先生(熊本大学医学部附属病院)



11月14日(水曜日)に支援班としてお手伝いさせて頂いている名古屋第二赤十字病院にフォロー訪問をいたしました。まずは改善行動計画(名古屋第二赤十字は感染と循環です)の進捗状況の確認と改善行動計画を実行するに当たっての課題についてみんなで相談しました。感染と循環に関してそれぞれの確な現状把握がなされており、また施設見学にて学んだことを併せて、感染管理と循環管理への対策がなされていました。それに関してみんなで熱い議論を交わしました。組織が大きい分、スタッフ全員の意思統一や方針の決定がなかなかスムーズに行かず、苦勞されているようでした。しかしその中でも名古屋第二赤十字病院の担当者の方々はベストを尽くされていると感じました。また支援班の先生方も名古屋第二赤十字病院の課題に対して、親身に相談されているなあと感じました。議論後、NICU見学をさせて頂きました。現在移転中とのことでプレハブの仮NICUでしたが、とてもプレハブとは思えない造りに驚きました。また移転中でお忙しい中、改善行動計画も行っているスタッフの方々の苦勞を感じました。NICU訪問後、また議論が交わされた後解散となりました。全体を通して議論が白熱したために、予定時間オーバーとなり新幹線の予約時間に間に合わなくなるくらいでした。とても有意義な訪問であり、良かったと思いました。またスタッフの皆様の頑張り、熱い思いを感じ、今後も一層身をひきしめてお手伝いしなければと気持ちを新たにしました。名古屋第二赤十字病院の皆様、ペア施設担当の方々、また支援班の方々、お世話になりました。



図. フォロー施設訪問の風景

5. 症例登録状況

2012年11月26日現在、804名を登録していただいております、目標症例数の3分の1を達成しました(右図)。

症例登録の作業は施設によって、施設担当者であったり、患者主治医であったり、事務員であったり、さまざまです。なるべく負担がかからず、円滑に、正確に、漏れなく登録できるシステム作りもまた、今後の課題と思われます。

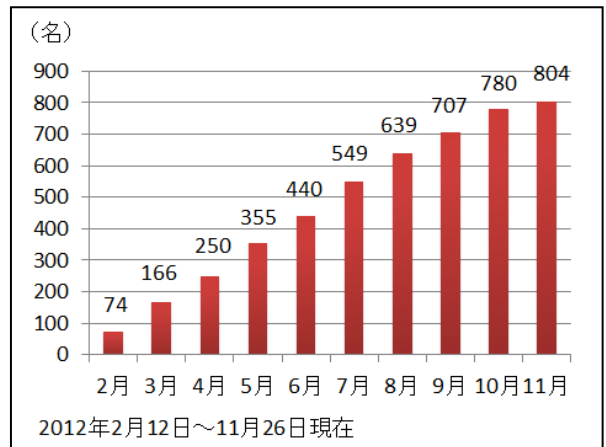


図. 出生月別INTACT対象登録患者数の推移

5. 施設紹介(高槻病院)

今回は2012年5月にワークショップを行い、6月より改善行動計画にスタッフ皆さんで取り組んでいらっしゃる高槻病院を紹介します。もともとチームに分かれて、質改善の取り組みをされており、本研究の介入も順調に進んでいる施設のひとつになります。

1.施設名

社会医療法人愛仁会高槻病院 新生児小児科

2.規模

NICU21床 GCU30床

3.スタッフ

医師13名(指導医1名、専従医8名 後期研修医3名 初期研修医1名)、看護師60名、事務員1名、その他兼任として、理学療法士・臨床工学士・臨床心理士・薬剤師・MSW



NICU

4.医師勤務体制

通常勤務＋当直6-7回/月(当直明けはフリー)

5.看護体制

2交替(日勤/夜勤: NICU8/7名GCU6/5名)

6.施設・地域のアピール

大阪-京都のちょうど真ん中に位置し、2001年の総合周産期センター認定以来、北大阪地域の最後の砦として機能。22・23週はやれば助かる・育つと主張して一部の注目を集めた。もともと小児外科は全国的に有名、さらに2012年から小児脳神経外科が開設、さまざまな先天異常にも多職種連携にて診療にあたっている。

7.研究への参加理由

個人としてチームとして病院としての視野をさらに広げることができるのではないかと思ったから。

8.施設担当者から一言

施設長の「新生児(科)を続ける気があるよな」の一言で施設担当になってました。

凡人ですし、できることをコツコツと目立たぬよう活動していきます。(末永英世)

**9.看護担当者から一言**

すべては「赤ちゃんのため」。ぶれない気持ちで向上心の強い仲間と共に頑張りたいと思います。(小柴直美)

**10.スタッフから一言**

優しい先生方、諸先輩方のおかげで何とかやっていけてます。これからもどんどん手伝ってもらおう気満々です。(藤田慧)

**11.施設長(部長)から一言**

若者たちは生き生きとして頼もしい限りです。22週の子と一緒に、できるだけ介入せず、緻密に観察し、栄養を十分に摂ってもらう。たまに悪い菌に感染するのでその時だけは思い切り叩く。私がすべきことはそれだけです。

(高槻病院副院長 南宏尚)



三ツ橋偉子、西田俊彦、佐々木八十子、松田直子
東京女子医科大学母子総合医療センター
周産期研究事業支援室
〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
WEB : <http://www.nicu-intact.org>
TEL/FAX : 03-5269-7444(直通)
official MAIL : nicu-intact@boshi.twmu.ac.jp